

## 令和6年度第1回北海道立近代美術館協議会 議事録

- 1 日 時 令和6年7月25日(木) 15:00~17:00
- 2 会 場 北海道立近代美術館 3階 会議室 (Web会議システム Zoom 併用)
- 3 出席者 【委員】東尚典、大石朋生、柿崎三津子、加藤誠、北村清彦(会長)、千葉徹、  
中井令、三橋純予、吉崎元章(副会長) (計9名)  
(欠席 三澤祥子、霜村紀子) (敬称略 50音順)  
【事務局】近代美術館：松田副館長、中村学芸副館長、熊澤総務企画部長、  
村山学芸部長、富田総務企画課長  
三岸好太郎美術館：櫻井館長、井内学芸員

4 傍聴者 なし

5 議 題

### 【近代美術館】

- (1) 令和5年度事業実施報告及び美術館評価について …… 資料1-1
- (2) 令和6年度運営計画について …… 資料1-2
- (3) 北海道立近代美術館リニューアルに向けた検討状況について …… 資料2

### 【三岸好太郎美術館】

- (4) 令和5年度事業実施報告及び美術館評価について …… 資料3-1
- (5) 令和6年度運営計画について …… 資料3-2

6 議 事

三岸好太郎美術館長挨拶の後、委員・職員紹介の後、会長の進行により議事に入る。

- (1) 令和5年度事業実施報告及び美術館評価について
- (2) 令和6年度運営計画について

ア 事務局から資料1-1、1-2(近代美術館)について説明

## イ 質疑・意見

### 【北村会長】

令和6年度に、カフェが新設されたり、ポケット学芸員のコンテンツが増えたり、リモート・ミュージアムの改善が行われたという報告がありました。

私が嬉しいと思ったのは、アイヌの展覧会が行われて、藤戸さんの作品がコレクションに加わったことです。大変大きな作品ですので、収蔵庫のどこに納めるかが心配になりますが、購入できたことは、喜ばしいと思います。

美術館評価について、前年度から初めての方式で行われた評価方法で、評価がオールBになっていますけれども、この評価の仕方が、こんなに一生懸命取り組んでいるのに低い評価なのかなど、皆さんいろいろな意見がありました。Bという評価を私たちは、どのようにとらえたらいいのか、ご説明いただけますか。

### 【松田副館長】

前回の協議会の中でもご説明させていただいたところですが、評価の仕方は、近代美術館だけではなく、他の道立美術館なども同じ評価の仕組みを取り入れて評価しております。目標に対する達成度を、定性評価、定量評価で評価をしております。全てがBだから当館の活動がうまくいっているとは我々も考えているわけではなくて、これから何を目指していくかを踏まえて、PDCAサイクルの中での評価として、活用していきたいと考えております。

### 【北村会長】

この評価を評価として終わらせるのではなくて、次につなげていくための一つのジャンプ台にするための評価を行ってBということは、これからもっと上を目指す可能性もあるということですね。

### 【松田副館長】

評価は、定量、定性という形で評価しており、最高がBで評価するところもあり、必ずしも、Aにならないところもありますけれども、PDCAサイクルの中で今回の評価を活用しながら、職員で協議をしながら取り組んでいきたいと思っております。

### 【北村会長】

近代美術館がこのような評価をしているというのは、どこかで見ることはできますか。

**【松田副館長】**

協議会資料を近代美術館のホームページで公開しております。また、評価調書についても、教育庁文化財・博物館課のホームページで公開しておりますので、道民の方が閲覧することは可能となっております。

**【吉崎副会長】**

昨年度の大きな展覧会において、近代美術館の学芸員が編集してほとんどの図録を作っていることはすごいと思いました。さらに、別に展示記録の冊子を作ったものもあり、ここまでやっても評価がBなのかと思ったところです。展覧会の成果や研究したものが、その場だけではなく、後世にもしっかりと影響を与えていくように記録し残していくという取り組みを大切にされていることはさすがだと思いました。

評価ですけれども、全ての項目でBというのは、正直なところ、いかがなものかと思いました。いろいろな要因があるという説明を今、聞きましたけれども、Bには普通というイメージがあり、よほど下手なことをしないとCとはならないし、よほど上手いかなければAにならないような感覚で、Bで皆さんが満足していると思ってしまいます。今年度の事業展開を聞きましても、昨年度と大きく変わらないように感じました。ウィズ・キッズや星の瞬間展、あとはカフェなど幾つか新しいことがあります、取り組み的には大きく変わっているようには感じませんでしたので、きっとまたBのままだろうと思ったということはお伝えしておきます。

**【北村会長】**

何のための評価なのかということを考えると、各項目で、課題が出ていて、それを職員の間で共有して、こういった点については、協議会の意見なども参考にさせていただいて、少しでも改善していこうという、評価のための評価ではなくて、行動するための評価ということだと思えます。

**【中井委員】**

ポケット学芸員について、前にリクエストしたのですけれども、実施していただいてよかったと思っています。実際見てみましたが、前年度、近代美術館と三岸好太郎美術館をあわせて9作品、

今年度も8作品を増やすということですが、今後、作品を増やしていきますとすることをどこかに明記した方がいいと思いました。現状ですと、これしか載ってないのかと物足りない感じはありますので今後に期待します。

他には展覧会の観覧者数を見ていた時に、1日当たりの平均的な観客数が書いてあるのですけれども、折れ線グラフのような推移が分かるといいと思いました。口コミで人が増えて集客数が増えている展覧会とか、或いはずっと同じとか、最初だけ評判良くて下がったとかあるのかが、気になったところであります。

評価について、Bは可も無く不可もなくということなのかと思うのですけれども、学芸員の皆さんが、Aをとろうという意識を持って取り組んでいるのであれば、評価をつけている意味はあると思いますけど、何となくこなせばいいとなっているのだったら、考え直さないといけないと感じました。

**【松田副館長】**

評価については、項目ごとに、最初に目標を立てて、その目標の達成状況で定性評価、定量評価で評価させていただいて、最終的に、それぞれの項目ですべてBという結果でした。我々も、職員一人一人がBという評価をどのように受けとめるのかなどが重要だと思っていますし、その評価を、次につなげるような形で取り組んでいかないといけないと思っています。

観覧者数の傾向については、次回の協議会で、人数がどのように推移しているかをお見せできるように考えていきます。

**【北村会長】**

加藤委員は、初めてですけども、札幌北陵高校の放送部の生徒がポケット学芸員のナレーションをしてくださっていると思いますけども、何かご存知のことはございますか。

**【加藤委員】**

子供が活動する場を与えていただいて、非常にありがたいと思っています。特に、高文連ですので、芸術文化活動について、広く活動していく子供たちを、近代美術館の方で支援していただいているので、子供たちも非常にやる気が出ていると思っています。

また、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課から、7月1日から8月31日まで、高校生等の美術館等利用促進重点期間ということで、高校生が、常設展示を無料で見に行けるという取り組みをしていただいていますので、大変嬉しく思っております。

**【北村会長】**

ぜひ、そういう機会を使って、多くの高校生に美術館を訪れるようにしていただけるとありがたいと思います。

**【三橋委員】**

ミュージアムとしての取り組みが、多岐にわたっていて、すごく大変だと思いました。役割分担をされているのでしょうけれども、いろいろやられている皆さんの努力をとっても感じました。その評価が、Bが妥当かということはあるかもしれませんが、最高点でないから良くないのではなく、良く出来たところ、新しい挑戦をされたところが、個々にでも学芸員の方たちにフィードバックされていると次のやる気に繋がると感じました。

また、教育普及活動にかなり力を入れ始めているところで、加藤委員が言われたように、いろいろな部署、組織の目標、いろいろな役割やらなければいけないものが、うまくマッチして互いにやっていくことで、より効果的に負担なくできていくと感じました。外部と連携するのは、大変な労力がかかると思いますが、うまく使われていくと近代美術館がハブとして機能し、全体的な評価として底上がりしていくと感じました。学芸員の方たち、職員の方たちやボランティアの方たちがより良いフィードバックを受けて、やる気に繋がるといいと感じました。

**【北村会長】**

近美のリニューアルに向けて、ウィズ・キッズやコラボレーションが、美術館の目指す形となっております。それは、リニューアルになる前からそういった活動を始めようということなので、他との連携が行われたり、あるいは児童生徒の美術館への関与を深めたりということが、少しでも進んで、それがリニューアルの時に大きく花が咲くようになれば、とてもいいと思います。

**【東委員】**

評価について、B評価が取り組まれた方々にとって、モチベーションの高まりに繋がる評価であ

って欲しいと思いますし、そういう評価でないといけないと思いますので、会長からもお話があったように、次に繋がるものであっていただきたいし、前向きな受けとめ方をしていただければありがたいと思っています。

一つお伺いしたいのですが、昨年度のオンライン・アート教室で、小・中学校の実績がなかったとなっているのですが、実際の申し込みがどれぐらいあったか、どのように学校が決まったという経緯がわかったら教えていただきたい。

**【熊澤総務企画部長】**

オンライン・アート教室の令和5年度の実施状況ですが、道教委の文化財・博物館課で取りまとめた後、近代美術館を希望する学校が本庁から示され、実施できるかできないかを調整することになります。結果として、昨年度は、小・中学校はなかったということです。また、今年度は小・中学校はございます。

**【東委員】**

希望の中には小・中学校は入っていましたか。小・中学校からニーズがどれぐらいあったかが知りたかったのですが、資料はありますか。

**【熊澤総務企画部長】**

令和5年度の近代美術館の資料しか持っていないのですが、別途、調べたらわかりますけども、小・中学校からの申し込みもあったと思われます。

**【東委員】**

ウィズ・キッズの展覧会のことで、造形教育連盟の主に小・中学校の先生方と関わらせていただくとか、見学させていただき学芸員の方とお話しさせていただく機会を作っていただくとか、協力させていただくことになりました。仲間内でも、美術館と繋がりたいという思いを持っている先生が、結構いるということがわかりました。そういう中で、小学校から、希望があまり出ていないということで、コンタクトの仕方に何か問題があるのかと思っておりましたのでお伺いしました。

**【北村会長】**

次回の協議会までに、どういう状況で申し込まれているのかということをお報告していただくのと、

関係する先生方とのコンタクトのあり方もちょっと工夫していただけると良いと思います。

**【千葉委員】**

お客様のアンケートの中で観光客の方がかなり騒いでいたという意見があったので、この関係については私どもも、節度を持った対応をしていただきたいことを周知させていただきたいと思います。

また、鳥獣戯画展はとても大きな展覧会だと思いますので、今日、1時間位前に来てどのようなものか確認しようと思ったら、120分待ちと言われました。大変人気だと思うことと、平日で120分待ちということであれば、土日になれば、もっとすごいと思ったのが率直な感想でございました。

**【北村会長】**

観光客の問題は、国際芸術祭ですか。

**【松田副館長】**

そこだけに限ったものではないと思っております。

また、先ほどの鳥獣戯画展の話ですけれども、おっしゃる通り、先週だと土曜日、日曜日は150分、180分待ちで、非常に多くの方々に並んでお待ちいただいている、心苦しいのですけれども、1人でも多くの方にじっくり見ていただきたいという気持ちもがございますので、皆様にご理解をいただきたいと思っています。

**【柿崎委員】**

私は、去年から参加させていただいて、今回3回目ですけれども、近代美術館の取り組みが、毎回極められていて、Bの評価ですけれどもどんどん良くなっていて、毎回感動させてもらっています。

先月、パスキン展の時に高等養護学校の生徒さんに解説をさせていただきました。昨日は、札幌の小学校の生徒さんが100人ほど来まして、鳥獣戯画展を見る合間に、2階のガラスの展示を見ということで、子供たちの誘導で参加させていただきました。ガラスの展示を初めて見たということ、近代美術館に初めて来たということなどを聞いて、すごくいい機会に関わらせてもらったと思っています。ウィズ・キッズは、子供が未来に繋がっていくととてもいい試みの前段階だと感じております。

す。こういう機会が増えていけば良いと思っています。

**【北村会長】**

子供たちが、伸び伸びと元気よく見ていただけるといいですね。海外の美術館では、子供たちが絵の前に座って、学芸員の方が解説するという光景は、日常的にあり、そういう光景は微笑ましいと思います。

資料1-2の令和6年度の運営計画について、令和5年度の様々な評価の中で、或いはこの協議会の中で出たご意見などを取り入れていただいて、まだ、コンテンツとしては寂しいかもしれませんが、ポケット学芸員のコンテンツも少しずつ増えました。展覧会では、ウィズ・キッズの展覧会が行われるようになります。オンライン・アート教室も、今年度は8校になります。また、カフェが、新規オープンしたというのはとても大きいことだと思います。それでは、皆様のご意見を、お伺いします。

**【吉崎副会長】**

先ほど、きつめに言いましたけど、美術館というのは、地道な目立たない活動の積み重ねで成り立っていて、そちらの方が重要だと思っています。そのため、代わり映えしないというのは悪いことではなく、評価がBでも、本来的な美術館の活動を続けていくことが一番重要であると思っていますということを、誤解がないようにお伝えします。

今年の取り組みとしては、アンケートをたくさん取れるように、WEBなど新しい方法を考えていると説明がありましたけど、WEBにしてアンケートは増えましたか。

**【熊澤総務企画部長】**

QRコードを使用してWEBで回答される方が、年間で何百かは増えています。

**【吉崎副会長】**

我々も小さな美術館ですけれども、お客さんの声を大切にしたいので、手配りで入館者全員にアンケート用紙を渡しています。そうすると、2、3割は書いてくれますので、大体の傾向は掴めていると思います。しかし、任意の場合、大抵は、文句がある時か、よっぽど良かった時にアンケートを書きますので、お客さん全体の傾向を把握するのは、なかなか難しいと思います。どういうこと

を知りたいのかによって、WEBと紙だけでいいのか、その他の方法がいいのかなどいろいろなやり方があり、いま検討されているところだと思いますので、来年度どのような報告があるか楽しみにしております。

また、SNSで発信することに力を入れていくという話がありました。SNSは下手をすると炎上ですとかいろいろな問題があって、昨年度もご苦労されたこともあったようですが、当館で最近始めて良かったのが、フェイスブックの有料広告です。これは、カード決済でないと駄目なのですが、1万円払えば4000～5000件の閲覧が増えますし、地域や世代、興味の対象などを限定でき、費用対効果が高いので、ご検討いただければと思います。

#### 【東委員】

最近感じていることは、展示についている解説がともて見やすく工夫されていることです。特に、私は、年を取ってきて、少し暗かったりすると見づらくなったり、いろいろなものを見た時に、字の大きさや明るさが左右するということがわかりました。この間、ウィズ・キッズを見せていただいたのですが、子供向けということもあって展示のパネルなどが工夫されていたので、是非、今後、工夫していただいて見られる方がより作品のことなどを知る工夫をしていただければありがたいです。

#### 【北村会長】

事業計画のDで、最新の展示環境に関する情報の収集及び展示のノウハウを研究するところがありますので、キャプションの作り方や見せ方なども、工夫されると思います。

#### 【熊澤総務企画部長】

先ほど、東委員からご質問のありましたオンライン・アート教室について、今年度の申し込みは、全道で、小学校6校、中学校4校、高校2校、特別支援学校11校の計23校です。希望テーマや、希望する美術館などにより、今年度、近代美術館として決定したのが小学校2校、中学校1校、特別支援学校5校の8校になりました。

#### 【北村会長】

道教委で、どのように告知しているかは、私は存じませんが、ちょっと数としては寂しい。

やればやるだけ負担が増えますけども、もう少し数が多くてもいいという気がしますので、検討してみてください。

**【中井委員】**

『鳥獣戯画』について、展示替えが6回あるということで全部見ようというつもりで、今日も少し早く来たのですけれども、120分待ちということで断念しました。

また、『皇室の至宝』も、実際に三の丸尚蔵館で伊藤若冲などを見て本当に感動しましたので、札幌で見られるというので楽しみにしております。

**【柿崎委員】**

8月7日から国立新美術館で、田名網敬一さんの作品展があるのですが、それを、近代美術館でも所蔵しているということがすごいこととっております。表に出ない、近代美術館の所蔵作品のすごさを常々感じているのですけれども、マリリン・モンローなどの作品は貸し出しされていますか。

**【中村学芸副館長】**

田名網敬一について、当館には版画がありますけれども、今回の展覧会には、貸し出しはしておりません。版画は、おそらく何点も作られているので、別な調達の仕方をしたのではないかと思います。

**【大石委員】**

東委員がおっしゃっていた、オンライン・アート教室について、移動美術館がなくなったということもあって、応募してくる地域が、札幌、小樽、旭川周辺になっているのか、或いは、へき地から応募がきているのかということも、次回以降で結構ですので、どのような割合になっているのかのデータが知りたいです。数が少ないとも思います。オンラインであれば、日にちが一緒だったら、一緒にやったりできると思います。

また、先ほど、オーバーツーリズムの話がありましたが、インバウンドをねらうことはすごく大事だと思います。外国から北海道のリゾートに来て、鳥獣戯画や動植綵絵など、日本の至宝を見られるというのはとても贅沢なことなので、日本人だけが観覧するのではなく、観光客たちが、

近代美術館に来ていただけるようになると良いと思います。来館者アンケート回収率向上のための取り組みというのがあり、回答内容が確認できるようになっているのであれば、英字で答えているか、回答内容により海外から来たお客さんなのか日本のお客さんなのかの内訳を追跡調査して、どれぐらい実態数があるのか把握すると良いと思います。わかるようであればお聞きしたいのですが、実際、QRコードでアンケートに答えられるとはなっているのですけども、回答様式は、和文ですか。

**【松田副館長】**

現在は、英字のアンケートでの質問様式は作っておりません。これから、インバウンド対策に向けてどのようなことができるか、考えていきたいと思います。

また、最初に、お話しいただいた小・中・高のオンライン・アート教室の申し込み別の割合などについては、次回の協議会までに、委員の皆様へ情報提供させていただきます。

**【大石委員】**

補足ですけれども、アンケート回収率向上ということであれば、公共機関だと難しいかもしれないですけれども、例えば、次回、何割引きすることで、リピーターとして望めるかもしれないですし、アンケートの回収率向上と回転が上がるということに繋がるのではないかと思いました。

**【北村会長】**

アンケートに答える方が、先ほど、吉崎副会長が言ったようにクレマーなのか、絶賛するのか、平均的な意見はなかなかないのかもしれないので、アンケートがどれだけ信憑性があるかは難しいですけれども、工夫してみてください。

また、観光の問題というのは、これからの美術館にとって大事な問題ですので、千葉委員などのお知恵を借りながら進めていかれたら良いと思います。

**【三橋委員】**

今の英語のことですけれども、私が、江戸東京博物館にいた時に、ボランティア担当をしていて、海外の観光客向けの解説ボランティアやその研修に携わっていました。そこでは、5ヶ国ぐらいの冊子とそれぞれの言語が得意な方達に、常設展示に係る研修を半年くらい受けていただいて、日

本語ボランティア、英語ボランティア、その他に4カ国語のボランティアを常時やっておりました。100人ぐらいのボランティアグループに、学芸員が2人つくような大掛かりなものではあったのですが、常設展示がほぼ変わらない博物館だからできたのだらうと思っております。内容的には解説の台本があってもいいので、英語等で少しずつボランティアを育成するとか、観光の部署と組むとか、そういう日があるとかが大事かと思いました。

この前、東京国立近代美術館でも、英語のボランティアが海外のグループを連れており、日本の作品に係る多くの質問を受けていて、興味がある人がすごく多いと感じました。ゆくゆくはですけど、得意な言語がある方をボランティアに取り込まれたり、観光の部署で育てていただく人材を近代美術館に派遣してもらおうとか、そういうことができると観光都市になっていくと思いました。私たちの生活の中でも札幌は国際化してきているという感じをもつので、少しずつだと思えますけども、そういう取り組みがあるといいと思いました。

【北村会長】

パンフレットの英語版みたいなのは、ありますよね。

【松田副館長】

美術館の紹介のパンフレットは、英語版、韓国語、中国語版など他の言語も用意はしていますけども、展覧会毎の案内という形になると、簡単にはできないところがあるのですが、ご指摘いただいた視点については非常に重要だと思っていますし、時間をかけて考えさせていただければと思っています。

【北村会長】

ポケトークのような機械的な翻訳でも、100%と言わないにしても、かなり使えるツールがあるので、デジタル技術に通曉した方であれば簡単にできると思ったりもします。観光の問題、多言語化の問題は簡単にはいかないかもしれないけど、考えてみてください。

(3) 北海道立近代美術館リニューアルに向けた検討状況について（資料2）

ウ 事務局から資料2について説明

エ 質疑・意見

【北村会長】

A、B、Cの三つの案が出ていて、それぞれ、社会性、環境性、経済性の観点から比較検討しているところです。私も委員の1人として参加していますので、この協議会でも、何度か、話題に上っており、その時にいただいた意見などもなるべく触れるように心がけて会議に出席しています。私が、今、こうなるということは申し上げられませんが、皆さん方から、ご意見があれば、可能な限り会議の中でお伝えしたいと思いますけども、何かご意見ございますか。

【中井委員】

経済的なことを考えたら、A案が良さそうに見えましたが、資料だけでは、建物ができてしまっからの持続性ですとか、建物自体の省エネがどれぐらい対応できるのかですとか書かれていないのでその辺りのことが気になりました。後々、色々な部分の水漏れがあって休館しますとかが出てくるのではないかなども考えないといけないと思いました。

先日、ニセコに行った時に、新庁舎を見学しましたが、SDGs未来都市になっているということもあり、省エネについて何ができるかということをとことん考えて建物を建てている。エネルギーを使わないことを第一優先にして考えて作っているのを目の当たりにしました。それを見た時に、近代美術館のリニューアルのことが頭に浮かび、省エネをいかにやっていけるのか、建物を何回も改修しなくてもいいようにできるのであれば、A案でもいいと思いますけれども、そうでないのであれば思い切って新しく建てた方がいいと思いました。また、会議に来る前に少し早くついたので、2階のカフェに行ったり、休憩コーナーも見てきたのですが、もし普通の改修のままでしたらあまり変わらないかと思いました。今回の特別展のように沢山のお客さんが入ってきていると、近美コレクションも皆さんに見ていただけます。お互いにシナジーが生まれて集客が上がってくるところに、カフェスペースに新しいお店が入り、とても素敵な空間であったけれども、少し代わり映えがしないと感じましたし、休憩コーナーはやや殺風景な印象です。思い切ったことが必要であると感じました。

【北村会長】

今年度中に、基本的な方針が決まる予定になっていますが、どのような形で決まるかは、まだわからない状況です。経済性の問題も、単なるイニシャルコストとランニングコストだけではなくて、改修、改築、新築で、どれだけ人を引き寄せることができるのかという波及的な経済効果を考えないといけないという議論も出ていますし、エネルギーの問題、環境の評価の問題など、いろいろなことを考えながら議論を進めています。

(4) 令和5年度事業実施報告及び美術館評価について（資料3-1）

(5) 令和6年度運営計画について（資料3-2）

オ 事務局から資料3-1、3-2（三岸好太郎美術館）について説明

カ 質疑・意見

【北村会長】

コロナ以前に戻って、ミニリサイタル等も再開されたということはとても嬉しく思います。小さな個人美術館で、いろいろと変化をつけながら事業展開するのはとても難しいと思いますけれども、こんなこともやっている、こんなアイデアがあるといつも感心しております。評価では、安全で快適な滞在環境の提供が、A評価になっております。1点、お伺いします。Dの活動の基礎となる調査・研究の推進の課題で、学芸員の自己研鑽によるところが大きいので、自己研鑽ではなくて、もっと別の研鑽の機会の確保、充実を図るとするのは、三岸好太郎美術館だけではなくて、近代美術館もそうだと思いますけれども、この課題の対処方法はありますか。

【中村学芸副館長】

最近、ZOOMでいろいろな研修に参加できる機会が増えております。特に、IPM（総合的有害生物管理）は、全国的にも進んでおりまして、九州の国立博物館などが中心に進めていますけれども、九州で開催していても、ZOOMで参加することが可能です。参加する機会、機材については確保されておりますので、そのような機会を活用しておりますが、現地に行って調査すること

になりますと、普段の出張費用では限界がありますので、そういう点で言うと、学芸員の方でも、様々な目的を明確にしながら、研究資金を申請し、確保していく努力は必要と思っております。

【北村会長】

吉崎副会長は、研修で2年間、地域創造にいらっしゃいましたが、いかがですか。

【吉崎副会長】

一般的な研修とは違い、2年間行くという感じでした。普段、美術館、或いは北海道にいてわからない、気づかないことをたくさん学びましたので、どこかに何年間か行くというのは、かなり有効な方法とは思いますが、三岸好太郎美術館だけではなく、道立美術館全体の中での話になってくるとは思います。

【北村会長】

個人の資質、学芸員の資質を高めることは、同時に、その組織全体の活性化などに必要なことではありますが、時間とお金がかかり難しいことだと思います。北海道だけで解決するのか、又は、全国規模、世界規模で人材の交流などが行われるのかとなると、三岸好太郎美術館、近代美術館だけの話ではなくなるとは思います。そういう機会を何とかできたらいいというのは、勝手な要望です。

【大石委員】

読み聞かせ付きコンサートやたんけん美術館など、多岐にわたって工夫されていて、非常に活動的だと思います。

#みまのめなどのイベントが、冬期に集中している理由はありますか。

【櫻井館長】

冬期に意識的に集中させたということではなく、例えば、たんけん美術館は夏休みと冬休みにやっていますし、夏休み中には人形劇をやっていて、子供に来ていただけるようにしております。

また、#みまのめは、毎年、冬期間に開催しております、その時に作家に来ていただいて、アーティスト・トークをやっております。冬期間に集中させたということではなく、全体的にバランスよく実施しております。

**【大石委員】**

冬期間の方が、雪まつりなどで人が多いなど、札幌の事情があるかとも思ってお聞きしました。

**【中井委員】**

評価のAで、居心地の良さ、快適さについて、私もすごく感じております。小さな美術館だからこそ、展示している絵の数が限られていて、一つ一つをゆっくりじっくり見ることができて、見終わった後に、カフェでくつろぐというサイクルがちょうど良く、景色も、知事公館が見えるところがいいなと思いました。常に展示しているものもあるけれども、毎回、いろいろな切り口から解説とかを工夫されていて、同じ絵でも飽きさせない工夫をされており、学芸員の方々がすごく頑張られているのはいつも感じています。

**【三橋委員】**

説明を聞いていて、リピーター対策が課題なのかなと聞いていて思いました。例えば、1年間に2回目来たら何か良いことがある、判子が押される、何回か来ると回数でグッズをもらえる、季節を全部感じてみよう、今度はお父さんと来てみようなど、何か取り組まれていくとより良いと思いました。とても居心地の良いところですので、切り口さえ変えれば人が来るというのは、いろいろなイベントがあると人が来るということなのでわかっているのであれば、リピーター対策をしていくことが今後の継続に繋がっていくので、いろいろなアイデアを出し、あまり負担のないものから取り組めればと思いました。

**【北村会長】**

ポイントカードはありましたか。

**【櫻井館長】**

ポイントカードは、作ってありませんけれども、目標には至っていないところがありますので、さらなる来館者の増加に向けて、今、言われたようなアイデアも含めて検討していきます。

**【吉崎副会長】**

「F 安全で快適な滞在環境提供」の評価Aは、スタッフの心によるものだと思います。小さな

美術館なので、来ていただいたお客さん一人一人にしっかりと向き合った温かい対応ができる。どうしても、大きい美術館ですと、シュツとした感じになりがちなのに対して、小さな美術館である当館においても、人と人の繋がりを大切にしています。また、個人美術館としては、コレクションが大きく変わらないなかで、単に切り口を変えた、解説を変えた、組み合わせを変えたというだけではない、現代的な価値観の再創出、そして発信も大きな課題だと思っています。今、当館では「共振展」という本郷新と現代作家と組み合わせた展覧会を行っています。学芸員だけではなく、アーティストなど他の力を借りながら、もう一度、所蔵作品を見直すという方法は全国的に試みられてきていますし、今年度に道立近代美術館で行おうとしている星の瞬間展もそうした切り口だと思いますから、三岸好太郎作品もいろいろな方法でぜひ輝くようにしていただければと思います。

**【北村会長】**

以上をもちまして、本日の議事をすべて終了いたします。

熱心なご討議、ご意見ありがとうございます。

**【議事終了】**

事務局から次回協議会の日程等について事務連絡を行い、すべての議事を終了。